

令和2年度 松江清心養護学校 学校評価

A(達成) B(おおむね達成)
C(やや不十分) D(不十分)

各学部・分掌目標	重点目標 [学校重点目標との関連]	重点目標達成のための具 体的な取り組み	評価指標		重点目標の達成度				自己 評価	今年度の自己反省(総括・課題) 各学部・分掌の重点目標は達成できたか。	改善点 来年度に向け改善すべき点	具体的な改善策 具体的にどのような取組や工 夫を行うか。	外部 評価
			評 価 者	評価項目	他者評価								
					A	B	C	D					
小学部 ◎自分から挑戦しようとする児童の育成 ○身近な人と豊かにかかわる力を育てる ○自ら学ぼうとする意欲を育てる ○健康な身体を育てる	[I-①] ・新学習指導要領に基づいた授業づくりについての授業実践を深める。	・学部内研究グループでの授業(合わせた指導、自立活動など)をもとに、新学習指導要領に視点を当てた授業研究会を年2回実施する。 ・各研究グループの実践事例をとりまとめ、情報交換会を開催する。	小学部所属者	・授業研究会を年2回実施することができたか。 ・授業研究会や情報交換会は、新学習指導要領に視点を当てた授業づくりをする上で有効であったか。	16	20	0	0	B	【総括】 ・おおむね達成できた。具体的な取り組み(授業研究会、情報交換会)を実施することはできた。 【良かった点】 ・生きる力を育むための3つの資質能力における大切にしたい視点をまとめ、確認できた。 【課題】 ・授業研究会等を実施したが、指導方法や学習内容の構成まで深めるには至らなかった。	・教育課程に関する考え方が十分に整理できておらず、授業づくりについて各学級それぞれの捉え方になっている。 ・他学部、関係分掌(研究推進・教務)との連携した進め方が必要。	・教科等を合わせた指導の考え方や各類型の教育課程等については、各学部や関係分掌と連携し、本校の教育課程に関する捉え方・考え方を基にしながら実践していきたい。 ・授業づくりに関しては、校内研究と合わせて引き続き取り組んでいきたい。	B
中学部 ◎自分の良さや可能性に気づき、たくましく生きようとする生徒の育成 ○さまざまな人と自分からかかわる力を育てる。 ○基礎的な学力の定着を図る。 ○自分のやりたいことや目標に向かって挑戦できるたくましい心と身体を育てる。	[I-①] ・教科等を合わせた指導において、教科の目標・内容設定、実践、評価を行うために有効なシステム(一連の流れ)を明確にする。	・学部教務や研修部と連携しながら授業実践に取り組む中で、課題整理、改善に年3回、取り組み。 ・課題整理を行い出てきた課題や、改善策を学部で共通理解する。	中学部所属者	・目標設定、授業実践、評価の流れの中で、自分たちが感じた課題を洗い出し、改善策を考えたことができたか。 ・出てきた課題、改善策を学部全員で共有することができたか。	6	13	0	0	A	【総括】 ・生単の考え方の整理を行った。教育課程を編成している各教科の目標を3観点で設定し、単元の実践、評価の流れに取り組めた。 【良かった点】 ・教科の目標を設定することで生単の目標設定が明確になり、評価も明確になった。 【課題】 ・今後も実践を繰り返し、3観点での目標設定、評価に慣れ、実践力を積み重ねる必要がある。	・早めに資料の準備や下話等ができてから提案できると良い。 ・単元の個人目標があった方が評価が明確になるのか、それとも各教科の目標で評価をすることが可能なのか。 ・生徒の評価規準をどのように定めていくか。	・単元を組む際に、CTが各教科の内容を出し、そこから個人の単元目標設定→実践→評価の流れで取り組む。 ・あわせて単元の目標は立てずに、各教科の目標だけで評価が可能なのかを考えていく。 ・次年度、赴任した教員に説明できるようにまとめておく。	B
高等部 ◎積極的に社会にかかわり豊かに生きようとする生徒の育成 ○社会性を身につけ、積極的に人とかかわる力を育てる。 ○身につけた学力を現在及び卒業後の生活に活用する力を育てる。 ○健康・安全に気をつけて生活する力を育てる。	[I-①] ・新学習指導要領に基づいた教育課程編成について考えを深める。	・教育課程編成につながる研修会や学級ミーティングで新学習指導要領について学んだり話し合ったりする時間を設ける。(6月～10月の月2回程度)	高等部所属者	・教務、研究部と連携し、新学習指導要領のポイントを押さえた話し合いができたか。 ・類型毎に実態把握から教育課程編成までの流れを検討することができたか。	11	15	2	0	B	【総括】 ・R3年度の教育課程について、学級や類型で話し合い、作成することができた。 【良かった点】 ・学級の生徒の実態把握を進め、目標の段階を検討し教育課程を作成した点。 【課題】 ・教育課程編成の論点整理が十分ではなかった。	・実践を通して作成した教育課程の妥当性について検討する。 ・新学習指導要領の趣旨をふまえた授業実践を行う。 ・研究について、学部のスケジュールや内容等について共通理解を図る。	・3観点での目標設定から実践、評価までを検討する。(教務と研修推進部と連携) ・授業実践や研修を通して、高等部の「3つの資質能力」について文章化や図式化等をし、共通のイメージがもてるようにする。(研修推進部と連携)	B
総務部 ◎学校全体の運営が円滑に進められるように企画・調整・管理を行う。	[I③、II②] ・保護者や地域にとって分かりやすい広報活動を行う。	・校報やホームページを閲覧しやすいよう、内容を工夫したり定期的に更新したりする。		・校報の改善案を提案実施し、ホームページを計画通り11回以上更新することができたか。	47	30	0	0	A	【総括】 ・目標達成できた。 【良かった点】 ・指標を超えた達成度であった。年度途中で情報担当の負担を考慮し、分掌内の役割を見直した。 【課題】 ・HP更新の仕方や内容	・学部によってHP更新の差がある ・HPで見にくい画面がある	・可能な範囲で更新頻度を合わせる ・見やすさや内容の工夫をする。(動画、児童生徒の発信、学級通信の一部など)	A
教務部 ◎新学習指導要領の理解を深め、個別の指導計画の見直しを行う。	[I-①] ・児童生徒の学習の充実のために、新学習指導要領の理念に基づいた個別の教育支援計画、個別の指導計画等の見直しを行う。	・新学習指導要領について研修、情報提供を行いながら、理解を深める。 ・学級ミーティング、指導検討会において、アンケート形式で意見を求めながら見直しを行う。 ・年間を通して計画的に教務部内での検討を進める。	全員	・新学習指導要領に関する研修の実施、定期的に掲示などの情報発信ができたか。 ・アンケート、学級ミーティング、指導検討会等で意見を反映しながら見直しを行えたか。	24	46	6	0	B	【総括】 ・個別の指導計画の検討は、県の書式の作成を待つことにした。 【良かった点】 ・書式の検討に向け教職員への研修、情報提供を行った。 【課題】 意見交換の場を設けたが、意見集約が不十分であった。	・令和4年度「県校務支援システム」から運用されるシステムの中にある教務関係書式についてスムーズな運用をめざす。	・どのような流れで学校として取り組むのかを意見を集約しながら準備を計画的に行いたい。	B
生徒指導部 ◎児童生徒一人一人の能力や適性が発揮され、お互いを認め合える心豊かな学校生活を目指した取組を推進する。	[II-②、③] ・児童生徒がお互いを意識し合ったり、かかわり合ったりできる機会を設定する。	・執行部と一緒に現状の中でお互いが意識したり、かかわり合ったりできるような取組を考え、発信していく。 ・「清心の心得5つのP」の掲示等を工夫し、意識できるようにすることで、児童生徒が主体的に活動できる体制や環境作りを行う。		・児童生徒がお互いを意識し合うきっかけ作りができたか。 ・5つのPを意識しながら日頃の実践を行うことができたか。	38	40	0	0	B	【総括】 ・概ね達成できた。 【良かった点】 ・コロナ感染予防対策下でもできる活動(リモート全校集会等)を執行部と考えながら活動できた。 ・「5つのP」については毎月ポスターを掲示することで、教職員が意識するきっかけ作りができた。 【課題】 ・コロナ感染予防対策下においてのよりよい行事、全校集会の運営について今後も検討が必要である。	・来年もコロナ感染予防対策での行事等の運営になると思われる。限られた環境の中でも児童生徒がお互いに意識し合える工夫や、地域の方と関わりがもてる方法について考えていく。 ・目指す教職員像である「5つのP」の意識化を継続する。	・全校放送や掲示板等も多く活用していく。ビデオ等も作成するだけでなく、活用してもらえるように呼びかけていく。リモート等を使って地域の理解啓発につなげていく方法を模索する。 ・「5つのP」の新しい具体的な行動について、研修等を通して教職員全員で考えていくことで、意識化を図る。	B

進路支援部	◎児童生徒が自己の進路を主体的に選択できるよう進路支援を行う	[II-②] ・児童生徒、保護者、教職員のニーズに応じた情報提供の充実を図る。	・保護者、教職員に対してアンケートを実施し、ニーズを把握する。 ・アンケートを基に進路だよりで情報提供を行う。 ・学部会などの機会を利用して、学部ごとに教職員向けに研修や情報提供を行う。	○進路だよりでの情報提供が年5回以上できたか。 ○学部ごとに教職員に対して研修や情報提供ができたか。	36	41	0	0	3.4	B	【総括】 ・保護者、教職員に対してアンケート結果に基づく情報提供を行った。重点目標は概ね達成できた。 【良かった点】 ・保護者アンケートに基づいた情報提供ができた。教員に対して、学部ごとに研修を実施し、学部やニーズに応じた内容を取り扱うことができた。 【課題】 ・進路だよりの発行時期の偏りを改善する。 ・年間を通じて計画的に教員研修を実施する。	・進路だよりは年間を通じて発行する。 ・情報提供手段の充実と周知を図る。 ・教職員研修を計画的に実施する。	・進路だよりの内容や発行時期を早めに決定し、計画的に進める。 ・事業所情報などの資料をフォルダにまとめ情報を得やすくしたりメールで周知したりする。 ・年間を通じて、時期をとらえた内容をとりあげて実施する。また、夏季休業中などを活用して、内容を選択して研修できる機会の設定も検討する。	B
研修推進部	◎研究・研修・情報発信を計画的に実施し、専門性の向上を図る。	[I-②] ・自ら専門性の向上を目指そうとする教員集団作りを推進する。	・学部研究の運営推進を行う。 ・自立活動に関する研修会や情報発信、相談会をとおして、教員の学ぼうとする意欲を促進する。	・校内研究の取組が、学習指導要領を踏まえた授業づくりや教育課程の編成につながったか。 ・各種研修会や情報発信が、教員のニーズや専門性向上につながる内容であったか。	30	41	5	0	3.3	B	【総括】 ・計画的に各業務を進めることができた。 【良かった点】 ・校内研究では、子どもたちに育む3つの資質能力のキーワードを洗い出し、整理することができた。 ・自立活動に関する研修や指導場面の巡回を、計画的に進めることができた。 【課題】 ・学習指導要領の主旨について、校内の共通理解を図るための取組が不十分であった。 ・自立活動に関する指導の充実のための組織的な取組の強化を図る。	・校内研究の進め方の検討と全体周知の徹底(研究計画を再提案し、全体での検討と周知を図る)。 ・自立活動に関する組織的な取組と指導の充実(自立活動の指導の充実に向けた組織的な取組の強化を図る)。	・子どもたちに育む3つの資質能力のキーワードをまとめ、全体に提案する。 ・校内研究に係る研修会の企画・運営を行う。 ・指導場面の巡回やミニ自立、自活だよりの発行等の充実。 ・自立活動の指導計画の作成や具体的なねらいの設定等の助言、困難事象に対するケース会議の実施等を検討。	B
保健部	◎一人一人の児童生徒の心と身体の健康を支え、安心安全に学べる学校づくりを推進する。	[II-①] ・児童生徒の健康と安全を守る保健体制の整備、日々の取組の充実を図る。 ・医療的ケアが必要な児童生徒の非常時における対応マニュアル、必要物品等について整理する。	・感染症等について、迅速に情報を収集して状況を把握し、基本方針を基にした具体的な取組を行う。 ・医療的ケアが必要な児童生徒の非常時における対応マニュアル、必要物品リストを作成する。	・感染症の感染拡大防止につながる具体的な取組を行うことができたか。 ・本校の非常時における対応マニュアル、必要物品リストを作成することができたか。	51	24	0	0	3.6	B	【総括】 ・コロナ感染予防の為に保健体制の整備を、校外外と連携、協力して進めることができた。 【良かった点】 ・本校の方針に沿ってコロナ対応を行った。必要物品も事務部と連携し計画的に調達できた。 ・非常時における医ケアの必要物品リストや対応マニュアルの作成、定期薬の預かりについて準備を進めることができた。 【課題】 ・非常時における医ケアの必要物品や定期薬の預かりについては、初めての取組の為に、教員や保護者への周知、準備等が課題。	・学校の実情、地域の感染状況に応じた本校としての対応、方針の検討。 ・非常時における医ケアの必要物品や定期薬の預かりを、計画的にわかりやすくすすめていくこと。	・感染症の拡大防止については、国や県からのガイドラインを基に本校として必要な環境整備、注意喚起を継続して行う。必要に応じて迅速に管理職と相談し対応する。 ・預かり方や保管方法、対応マニュアルについて、その都度確認や周知を行い、改善点等についても整理をしていく。	A
教育相談部	◎地域における肢体不自由教育のセンター的役割として、ニーズに応じた相談支援を行う。	[I-②] ・肢体不自由児にかかわる肢体不自由学級担任や療育教室保護者等への支援の充実をはかる。	・複数の目で実態を捉え、支援できるよう、教育相談部員全員が一人1回以上巡回相談に同行する。 ・療育教室が開催できない場合も、年数回、のびのびだよりを発行し、校内の取り組みの紹介や就学に向けての情報提供をする。	・部員全員が巡回相談に同行できたか。(職員会の活動報告) ・のびのびだよりを発行し、情報提供ができたか。(回覧)	46	29	0	0	3.6	B	【総括】 ・概ね達成した。 【良かった点】 ・積極的な働きかけで相談に繋げたり複数での巡回相談等により多様なニーズに対応したりできた。 ・参加者のニーズに応じた内容で肢体不自由学級研修会を実施し好評を得た。 ・のびのび便りを発行し、就学前の子どもをもつ保護者に学校とのつながりをもってもらう事ができた。 【課題】 ・短時間開催におけるのびのび教室の内容の充実。	・肢体不自由学級研修会の1学期の開催。 ・巡回相談の申し込みに至るのに個別の働きかけが必要な学校が多かった。 ・1時間1組ずつの受け入れとしたことで、活動や保護者の対応に十分な時間が取れなかった。また、保護者や子ども同士のつながりが作りにくかった。	・感染症対策を行って1回目の肢体不自由学級研修会を6月に行う。 ・巡回教育相談の申し込みにない学校には、積極的に働きかける。 ・今年度中に来年度ののびのび教室の実施方法や内容を検討し、実施計画案を立てる。複数回の受け入れが難しいときには、保育園訪問等を検討する。	B
事務部	◎児童生徒が、安全で安心して活動できる教育環境整備を推進する。	[II-③] ・学校の施設・設備を、安心・安全な状態に維持する。	・施設・設備等の破損・不具合は、認知した日から3日以内に対応方針を決める。	・施設・設備等の破損・不具合を認知した日から3日以内に対応方針を決めたか。	59	20	0	0	3.7	B	【総括】 概ね達成した。 【良かった点】 ・発見された破損・不具合等については、職員による修理・調整や業者発注等速やかに対応した。 【課題】 ・老朽化が進む施設の維持管理		・引き続き点検等により不具合箇所を早期に把握し、即時対応するよう努める。	B

全員